

20180514

谷津ローズガーデン/谷津干潟

2018

先週の天気予報では、5月14日（月）は雨模様とのこと、谷津行きをどうしようかと思案していたが予報は一昨日から一日早まって、昨日8日の日曜日午後から雨が降り始めてくれた。おかげで今朝は、曇りではあるが8時位には晴れ間も出てきそうである。

荻窪駅発9:13の中央線に乗り御茶ノ水で総武線に乗り換えて船橋駅へ。船橋駅からは一旦駅構外へ出て、徒歩にて京成線船橋駅へ。3駅先の京成谷津駅にて10:31下車。

WINGSの今回参加メンバー6名が集合・出発。駅前商店街を100mほど南に徒歩5分。空は、晴れ渡り快晴。気温は今朝ほど16℃であったが上昇して25℃を超えている。熱中症注意が必要なほどだ。



谷津駅前商店街

谷津ローズガーデン

今回企画の第一鑑賞スポットの、習志野市谷津バラ園。シニア料金、年齢証明の出来るものがあれば250円。

同園は、従前京成電鉄が経営する谷津遊園の主要な一部分となっていたのだが、

s57年に閉鎖され、s63年に習志野市谷津バラ園として再開されている。面積12600㎡と面積は、広くないものの800種7500株のバラが所狭しと植えられており、春5月6月、秋10月11月は、見ごろとのこと。国道一号線及び京葉道路の下を通り抜けると、バラ園前の公園の緑が見えてくる。



バラ園手前の谷津公園



谷津公園内

わざと遠回りさせているような園内通路を進んで行く。記念碑が見えてくる。場違いな処にあるなあと思つてみると「東京巨人軍発祥の地」と横書きされ、千葉・青田・長嶋・王ほかスター選手の手形が、陶板に転写されたものを嵌め込んでいる。米国MLBが初めて来日した折り、日本チームとしての鍛錬をこの場所で実施したのだそうで、そのチームが現在の読売巨人軍になっているのだと。王選手（現在福岡ソフトバンクホークスゼネラルマネージャー）の手形に手を合わせてみると、同サイズであった。超人と言っても、身体にさほど差がないことに驚いた。



巨人軍発祥の地記念碑



巨人軍選手の手形（中央が王さん）

もうすぐ先に谷津バラ園のエントランスが見えている。健康保険高齢受給者証を取り出し、シニアであることを確認してもらい、250円の入園料を券売機に投入。入場してみると、イメージしていたそれとは違って意外と狭い。しかし所狭しとばかりにバラで埋め尽くされている。故鈴木昭三氏の監修にて作られているとのことで、昨年5月に訪れた川崎市生田バラ園と趣が似ている。きっと英国のどこかのバラ園がモデルになっているのだろうと思われる。



谷津バラ園エントランス



エントランスからの全景（西側:パーゴラ）



エントランスからの全景（南側:バラのアーチ）



入口からの全景（東側に高層マンションが背景に）

西側のパーゴラから外周沿いに、アンチクロック回りにバラ群を見て往く。

パーゴラの柱には、弦バラが綺麗な花を付け、咲き乱れている。



パーゴラの柱に巻きつく弦バラ:ニュードーン

南側のアーチトンネルに回ると、バンマツリが、白と紫の小さな花をこんもりと着け、爽やかな匂いを発し可憐だ。



バンマツリ



バラのアーチ内部

東側に回って往くと鈴木昭三コーナー、コレクションコーナー、皇室王室コーナーと続く、エントランスの並びの北側には香りの庭として、匂うバラが集められている。

各所に、これでもかというほどにバラが群れを成している。状況も良く且つ気に入ったバラだけに、シャッターを押してみた。



チン・チン



レモンジンジャー



クイーンエリザベス



ルル



ドフトゴールド



パパメイア



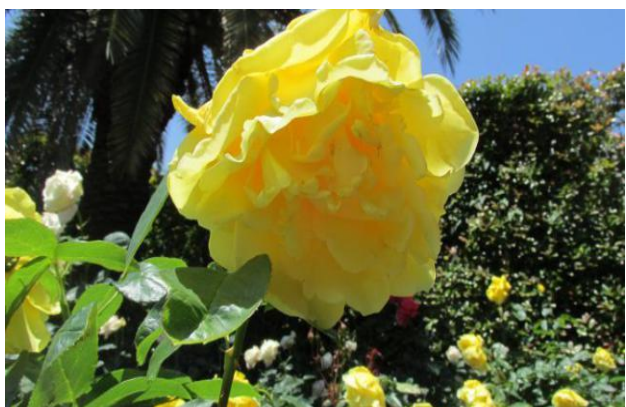
パールギュント



ゴールドバーニー



ドフトゴールド



カサノバ



快拳



モンパルナス



コンテッドヘンケル



フェルツアーゴールド



ユーパースト



秋月

イエロー系のバラを、多く載せているのですが、赤系・ピンク系・紫系・白系もモット沢山あるのです。好みに合ったものだけを載せているので、実際に同園へ足を延ばして頂くのが何よりかと。

黄色が好きなのは、「愛情に飢えているから」などとの詮索は無用に願います。

昼食・WINGS活動報告協議

ローズガーデンを十分に堪能したら、お

腹も空いてきたので昼食をとることに。受付の女性に相談して、ランチとお茶とが出来るところを紹介してもらう。「蛍明舎がシルバーの方には良いかも」との言葉にヨーロッパの山小屋風喫茶店に入り、コーヒーとサンドイッチを頂く。コーヒーの味はドリップで、さすがと思いつつもランチとしてのサンドイッチは、隙腹を満たすには量が少なかった。(会議のためには、眠くならずに良かったのですが。)

一番奥の席は、6人で会議するには丁度良い四角の大テーブルで、照明が少々暗めで、落ち着いて協議することが出来た。店名を読んでみて、照明が暗いことを納得した。少年少女用学習雑誌「蛍雪の候」を思い出した。(昔、読んだことありませんか?)



cafe 蛍明舎



ケアブレンド
(食べログより)

谷津干潟から南船橋駅へ

谷津バラ園と高層マンションの間の道路を干潟に向かって歩いて行く。干潟に向かって左側＝東側に干潟と一重の植栽の干涉帯をとって、道幅2m弱の遊歩道がめぐらされている。対岸には、本日月曜日休業の観察センターがカモフラージュなしに、これ見よがしに建っている。干潟は今、干潮のようで薄汚い水の無い露わな姿を見せている。

所々に、点在する木杭の頭に、海鷗が濡れた羽を太陽に向けて乾かしている。遠くでは、ダイサギが水面に嘴を入れて餌を漁っている。バーダーが望遠鏡でハマシギの数を数えている。470羽ほどいると言う

のだが、素人の私たちには、その存在すら解らない。



太陽を背にして羽を乾かす海鵜



ダイサギの番い

所々に、観察小屋が設けられ、30cm×90cm程の窓から干潟を望めるようにしている。だがバーダーたちの中には、一皮の干渉帯としての植栽内側に三脚を立て、自らの姿を露わにして写真撮りに熱中している方達もいらっしゃる。ラムサール条約の本意を理解したいものだ。

東側は、北側から流れ込む川が有り水際に小魚かと思われるものが、水に触れてごく小さな波紋を無数に描いている。

2ヶ所ほど観察展望台が有り、東から西奥までを見通せる。

南側は、環境センターまでの間結構な遊歩道となっているが、カモフラージュの植栽帯は無く、干潟と直に接している。水辺までの間は、葦で隔てられている。



谷津干潟を南側から（インターネットより）

環境センターの処で遊歩道は一旦終わる。同センターの外周を南から西に回り込むと、京葉道路と干潟との間をジャングル状に植栽を密植した間を未舗装・幅員4m程の道路を通して。昼なお暗きと言った感じである。この林を抜けると、また干潟と直に接し、幅員も2m弱としている。

何ヶ所か、海につながる水路がこの道の下に設けられていて、丁度満汐となってきたのか、結構な勢いで干潟に海水が入り込んでいる。一部では「谷津の渦潮」とでも呼びたい程の渦波を立てている。

ダイサギの10数羽ほどの群れ、キンクロ、シギなどを観察することも出来た。



ダイサギの群れ



キンクロ、この波は入潮による波

案内看板



谷津バラ園案内図（上が南）



谷津干潟とバラ園案内図（上が南）

帰り道

そろそろ歩き疲れた頃、行く手に水色の大きな歩道橋が見えてくる。干潟との交流も、ここまで。同歩道橋を西から南へ、南から西へと渡って行く。300mほど先に南船橋駅の橋上ホームの屋根が見えている。不細工な防音塀に接した歩道を歩いて行くと、切れ目があり唐突に南船橋駅が有った。階段を上り、トイレに寄って、ホームへのエスカレーターを上ると、すぐに東京駅行きの快速が来て、6人一列に並んで椅子に座る。

東京駅では、エスカレーターを乗り継ぎ、動く歩道に乗り、長らく歩き、中央線ホームへと移動。東京駅始発故、一本待って座らせて頂く。杉並区内の在所に沿って、新宿乗り換え組と荻窪下車組に別れ、またの再会を約束。

ここまでで、ザアーっと12000歩程のウォーキング。天気快晴・少々暑め・バラ奇麗・干潟渡る風清か！今日もまた素晴らしいウォーキングであった。

いつもながら感謝・感謝。明るく、楽しく、元気なWINGSです。

20180514
Suginami WINGS
JUSTing

PS：干潟の写真は、高橋 FT 提供